

Oshu Ambassador 大使の横顔

vol.13

市のPRを行っている奥州大使の皆さんを紹介するこのコーナー。新任大使で、歌舞伎役者の松本幸四郎さんをご紹介します。

アテルイへの思い

「残るものではないからこそ感動した」――。さまざまな色の稲を使って、鮮やかに田んぼに描かれた「高麗屋三代同時襲名」。昨年の夏、松本幸四郎さんは水沢佐倉河を訪れ、自身がデザインした田んぼアートを鑑賞しました。この場所は、かつて阿弓流

為（アテルイ）率いる蝦夷軍が朝廷軍を撃退した古戦場だといわれています。アテルイ没後1200年となった平成14年、幸四郎さんは舞台でアテルイを演じ、大きな反響を巻き起こしました。それまで歌舞伎や能でもアテルイをモデルとした人物はいましたが、それは退治される鬼として登場するものでし

歌舞伎の未来を描く

た。20年ほど前、新作を考えていた幸四郎さんは「アテルイを人間として捉え、坂上田村麻呂とのドラマを描きたい」と現地調査などを重ね、舞台化にこぎつけたのです。平成27年には歌舞伎化も実現。シネマ歌舞伎としても、全国の映画館で上映されました。

――こんなことも聞いてみた！――

Q.奥州市にはどんなロケで？

陰陽師。

ロケで2カ月ぐらい滞在していました。えさし藤原の郷のような時代劇を撮れる施設があるのは、ありがたみを感じますね。

Q.奥州市での思い出は？

江刺牛。

肉好きということもありますが、江刺牛の美味しさは忘れられません。何かこう優しくて楽しかった思い出ばかりです。



まつもと・こうしろう

昭和48年東京生まれ。歌舞伎役者。6歳で初舞台を踏み、8歳で七代目市川染五郎を襲名。平成30年に三代同時襲名を行い十代目松本幸四郎を襲名。舞台などでアテルイを演じたほか、えさし藤原の郷にもロケで来訪。

平成30年に三代同時襲名披露を行った幸四郎さん。父の白鸚さんが元気で舞台に立ち続け、息子の染五郎さんが歌舞伎役者を志したことが、今回の同時襲名につながりました。三代同時襲名はまれなことだそうで、「本当に幸せなこと」と顔をほころばせます。多方面で活躍する幸四郎さんですが、歌舞伎にこだわり、その可能性を追求していきたいという強い思いがあります。「日本人がミュージカルやオペラなどをやるように、海外でも歌舞伎演出のショーやドラマが行われたら」――。幸四郎さんが思い描く夢の舞台は、日本を飛び出し、世界へと広がっていきます。



インタビュー動画をYouTubeで公開中

※広報掲載に合わせて奥州大使の皆さんの動画を公開予定。みんなで「奥州市」にチャンネル登録しよう！

奥州市 ユーチューブ

検索

市民提案型協働支援事業（第1回審査分）認定事業の公表

■問い合わせ
本庁地域づくり推進課市民活動係
（江刺総合支所・☎34-1618）

2年度市民提案型協働支援事業第1回審査分には、4団体から事業提案がありました。団体、市事業担当課、地域づくり推進課による「協働の提案テーブル」で課題や事業の目的・計画性、役割分担などを話し合い、審査会で審査した結果、次の4事業が認定されたのでお知らせします。

第2回審査の提案事業を募集します

■提出期限 5月29日（金）午後5時
※詳しくはお問い合わせください

2年度市民提案型協働支援事業補助金（第1回審査分）認定事業一覧

団体名	事業名	コース	総事業費（円）	補助金額（円）
特定非営利活動法人シチズンスポーツ奥州	インクルーシブサッカー教室	ステップアップ	467,250	300,000
市相撲協会	大相撲「伊勢ノ海部屋奥州合宿」	ステップアップ	432,800	300,000
奥州カヌー愛好会	水源地域カヌー振興事業	ステップアップ	430,000	300,000
岩谷堂商店街連合会	いすー1GP（グランプリ）奥州えさし大会	ステップアップ	710,000	300,000

奥州市生母地区・一関市舞川地区・平泉町長島地区

東稲山麓地域の「世界農業遺産」「日本農業遺産」の認定に向けて

Vol.13

東稲山麓地域の世界農業遺産・日本農業遺産認定に向けた取り組みや地域の活動などを紹介します。

■問い合わせ＝本庁農地林務課農村保全推進室（☎34-1764）

2年度の認定に向けて

現在、農林水産省では、世界農業遺産への認定申請の承認と、日本農業遺産の認定を希望する地域を募集しています。東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会では、認定申請に向けて現地調査や文献整理を行い、次のポイントを中心に現在申請書を取りまとめています。

項目	内容
土地利用の工夫により洪水のリスクを分散	沖積地は明治時代以降73回（約2年に1回の割合）もの洪水の常襲地であるが、被害を低減するため品目の組み合わせなどに取り組んできた
森林保全とため池・棚田保全	中山間地では、地域の共有林として、森林保全を行ってきた。また地域のシンボルである「月山松」を中心に保全管理することで、ため池や棚田も守られてきた
古くからの石の産出地	お大師様、座禅石、胎内石など石像や巨石があり、地域住民の信仰を集めてきた。その他に、畦畔に石を積んだ先人の創意工夫による棚田が現在も残っている
個人の取り組みから地域の取り組みへ	個人の活動や取り組みが集落単位の取り組みとなり、さらに3市町を越えた東稲山麓地域全体の取り組みとなっている

長期にわたる洪水に対する取り組み、農地の特徴を生かした営農を行っている東稲山麓地域は、日本のみならず世界的に見ても他には見られない独創的な地域であることをアピールしていきます。